

外国語科学習指導案

令和6年9月17日 (火) 5校時

○○中学校

指導者 ○○ ○○

1 単元名 Unit 5 “A Japanese Summer Festival”
NEW HORIZON English Course 1

2 本単元を扱う領域における「CAN-DO リスト形式」による学習到達目標（第1学年）

	聞くこと	読むこと	話すこと[やり取り]	話すこと[発表]	書くこと
ア	はっきりと話されれば、好きなことや日常的にしていることについての短いスピーチなどを聞いて、主な内容を聞き取ることができる。	好きなことや日常的にしていることについて書かれた自己紹介ポスターなどを読んで主な内容を読み取ることができる。	自分の好きなことや日常的にしていることについて、即興でたずねたり答えたりすることができます。	自分が好きなことや日常的にしていることなどについて、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができる。	グリーティングカードや自分の好きなことについて、簡単な語句や文を用いてつながりのある文章を書くことができる。
	Unit 1~5	Stage Activity 1	Unit 1~5	Unit 1~5	Unit 1~5, Stage Activity 1,
イ	はっきりと話されれば、身近な人や有名人のプロフィールや、対話やスピーチなどを聞いて、概要を捉えることができる。	自分以外の人の紹介文や富士山の登山ルートについての対話などを読んで、主な内容を読み取ることができる。	身近な人や有名人について、今していることについてたずねたり答えたりすることができます。	身近な人や有名人について、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章で発表することができます。	好きな有名人やあこがれの人などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。
	Let's Listen 1	Unit 6, 7, 9 Let's Read 1	Unit 6, 7, 8, Stage Activity 2	Unit 6	Stage Activity 2
ウ	はっきりと話されれば、体験したことや感想などについてのクラスメートのスピーチなどを聞いて、要点を捉えることができる。	物語や休みの間の体験談などのつながりのある文章を読んで、主な内容を読み取ることができます。	自分やクラスメートが体験したことや思い出に残った学校行事とその感想について、たずねたり答えたりすることができます。	思い出の行事など自分が体験したことやその感想などについて、簡単な語句や文を用いて発表することができます。	思い出の行事など自分が体験したことやその感想などについて、簡単な語句や文を用いて40語程度のつながりのある文章を書くことができる。
	Let's Listen 3	Unit 10, Let's Read 2	Unit 10, Stage Activity 3	Stage Activity 3	Unit 11, Let's Write 2,

3 単元における指導構想

○教材観

本単元は、日本の夏祭りを題材とし、海斗・メグ・朝美・ジョシュの4人の、祭り会場における一場面や思い出が扱われている。今年の夏も夏祭り等の行事に参加した生徒が多いことから、比較的実生活と繋げやすい単元であると言える。

文法事項として、ものや人の位置を表す前置詞や、動名詞 like ~ing、過去形を用いた文が扱われており、これらを活用することで自分の好きなことや思い出を伝える力を養うことができると考える。

○生徒観

本学級の生徒は、自分が知っている単語を活用し、積極的に英語を話そうとする生徒が大変多い。生徒の英語学習への積極的な姿勢を生かし、授業中においては主にペアワークを取り入れ、繰り返し言語活動等に取り組ませている。そのため、英語での応答や会話を楽しもうという雰囲気が学級全体に徐々に広まって来つつあり、互いに協力し合いながら学習に取り組む姿が見られる。一方で、発表することに苦手意識をもつ生徒が多く、自分の話す英語に自信がもてない者が多い。

そのため、教科書の本文を参考にし、友達と協力し合いながら、自分が伝えたい内容や意見を自信をもって表現できる力を養いたい。

○指導観

本単元は、動名詞や過去形の用法が扱われており、自分自身のことをより知ってもらうために、具体的に説明することに適した題材であると考える。

単元終末の活動として、“All about me” Poster の作成を設定し、自分のことをよく知つてもうことができるよう、具体的に説明することや読み手を意識する状況設定をした。この単元を通して、自分の良さについての理解を深め、つながりのある文章を書き、発表することで、自分のことを相手に自信をもって表現できる発信力を育成したい。

4 単元の目標

自分のことをよく知らない人に自分のことを知つてもらうために、好きなことや楽しんでいること、自分が体験したことなどを、事実や自分の考え、気持ちなどを整理しながら、簡単な語句や文を用いてつながりのある文章を書くことができる。

5 単元の評価規準 「書くこと」の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〔知識〕 動名詞や前置詞、過去形を用いた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>〔技能〕 自分が好きなことや楽しんでいること、自分が体験したことなどについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてつながりのある文章を書く技能を身につけている。</p>	<p>相手に自分のことを知つてもらうために、好きなことや楽しんでいること、自分が体験したことなどについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてつながりのある文章を書いている。</p>	<p>相手に自分のことを知つてもらうために、好きなことや楽しんでいること、自分が体験したことなどについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてつながりのある文章を書こうとしている。</p>

6 指導と評価の計画 (9 時間)

時 間	ねらい (■)、言語活動等 (丸数字)	評 価			備考
		知	思	態	
1	<p>■単元の目標を理解する。</p> <p>■ストーリーの内容を予測し、おおまかな内容を伝え合う。</p> <p>①新出文法を学習する。</p> <p>②教科書の本文に出てきている Key sentence の意味や使い方を確認する。</p> <p>③目標文法事項を使って、いくつかの場面や状況を表す英文を書く。</p>				
2	<p>■朝美とジョシュの会話を読み、目標文法事項の確認やストーリーの概要を捉える。</p> <p>①教科書の会話文を聴き、聴き取ることができた内容に関し、ペアや学級全体で共有する。</p> <p>②対話文で使われている新出単語の意味や使い方を理解する。</p> <p>③本文の内容理解をする。</p>				記録に残す指導は行わる

	④本文の内容を踏まえた上で、音読練習をする。			
3	<p>■朝美とジョシュの会話文を読み、目標文法事項の確認と理解を行う。</p> <p>①新出文法を学習する。</p> <p>②教科書の本文に出てきている Key sentence の意味や使い方を確認する。</p> <p>③目標文法事項を使って、英文を書く。</p> <p>④本文を聴き、内容理解をする。</p>			
4 本 時	<p>■好きなこと、得意なことを表す英文を使ってクイズの英文を書く。</p> <p>①3ヒントクイズに答える。</p> <p>②自分の好きなことや得意なことのクイズを書く。</p> <p>③クイズに答える。</p>			
5	<p>■メグのスピーチを聴き、目標文法事項の確認と理解を行う。</p> <p>①新出文法を学習する。</p> <p>②小学校で学習したことを復習する。</p> <p>※③以降は第1校時の②③と同じ</p>			
6	<p>■メグのスピーチを読み、目標文法事項の確認や、ストーリーの概要を捉える。</p> <p>①教科書の会話文を聴き、聴き取ることができた内容に関し、ペアや学級全体で共有する。</p> <p>②対話文で使われている新出単語の意味や使い方を理解する。</p> <p>③本文の内容理解をする。</p> <p>④本文の内容を踏まえた上で、音読練習をする。</p> <p>⑤最近体験したことについて、つながりのある文章を書く。</p>			
7 8	<p>■自分の好きなことについて、つながりのある文章を書くことができる。</p>			
9	<p>①Unit 5 の学習内容を復習する。</p> <p>②自分のことについて紹介する英文を書く。</p> <p>③ポスター作成後、クラスで発表する。</p>	○	○	○
後 日	<p>○ペーパーテスト</p> <p>・前置詞や動名詞、過去形などの言語材料の用法を確認する。</p>	○		

7 本時の活動（第4時）

（1）目標

好きなことや得意なことについて、簡単な語句や文を用いながら、クイズを書くことができる。

（2）展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の場面	評価方法
1分	1 あいさつをする。	・簡単なやり取りをし、緊張をほぐさせる。		
1分	2 本時の目標を知る。	・本時の目標と流れを生徒と確認する。		
自分の好きなことや得意なことに関するクイズを作ろう。				

2分	3 復習をする。	・視覚的補助として、前時に学習した例文を板書する。		
5分	4 3ヒントクイズに答える。 (動物・キャラクター・有名人など)	・答えが分かっても、最後まで聞くように指示する。 ・解答する場合、“Are you ●●?”と答えるよう指示する。		
35分	5 書く活動を行う。 ①Padletで、自分の好きなものや得意なことに関する3ヒントクイズを作成する。 ②クラスメートが作ったクイズに答える。	・教員が作成したクイズの例を提示し、完成イメージをもたせる。 ・クイズを作成する際のルールを提示する(答えを書き込まないなど)。 ・机間指導等で得た生徒の様子を参考に、最後に全体でクイズを共有する。		記録に残す指導は行わないが、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かす。
5分	6 本時の振り返りを行う。	・振り返りシートに自己評価をさせる。 ・生徒の良かった点を伝える。		
1分	7 あいさつをする。	・元気よく終わりの挨拶をする。		

8 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況 (a)	好きなことや得意なこと、自分が体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、つながりのある文章を書いている。
「おおむね満足できる」状況 (b)を実現するための具体的な指導	好きなことや得意なこと、自分が体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、つながりのある文章を書くことができるよう、表現などを確認しながら支援する。
「努力を要する」状況 (c)と判断した生徒への事後指導	好きなことや得意なこと、体験したことなどを伝える表現を再度確認し、これまで学習した表現などを活用できるよう個別支援を行うことで、「おおむね満足できる」(b)を達成できるようにする。